様式3

第１８回　全国街路事業コンクール応募資料

平成１８年３月

応 募 者 名：愛知県常滑市建設部土木課
事業の名称：常滑都市計画道路
３・４・４号　北条向山線街路事業
実施都市名：愛知県常滑市

事業の目的

- 常滑都市計画道路３・４・４号北条向山線は、２００５年２月１７日に開港した中部国際空港の機能を最大限発揮させるため、同時に整備された知多横断道路（セントレアライン）とともに、名古屋市やその周辺都市から常滑市へ、そして空港へとつながるアクセス道路として、新たに造成された空港対岸部地域開発用地部分を含む、延長1.02kmの街路整備を行ったものである。

事　業　概　要（1）

- 事 業 名：常滑都市計画道路
  ３・４・４号北条向山線街路事業
- 路 線 名：３・４・４号　北条向山線
- 事業箇所：常滑市りんくう町１丁目
  ～常滑市新開町３丁目
- 事業延長：１．０２ｋｍ
- 幅　　員：３０～４６ｍ（４車線）
- 総事業費：約６，０１４百万円
- 事業期間：平成１２年１０月～平成１７年１月

事　業　概　要（2）

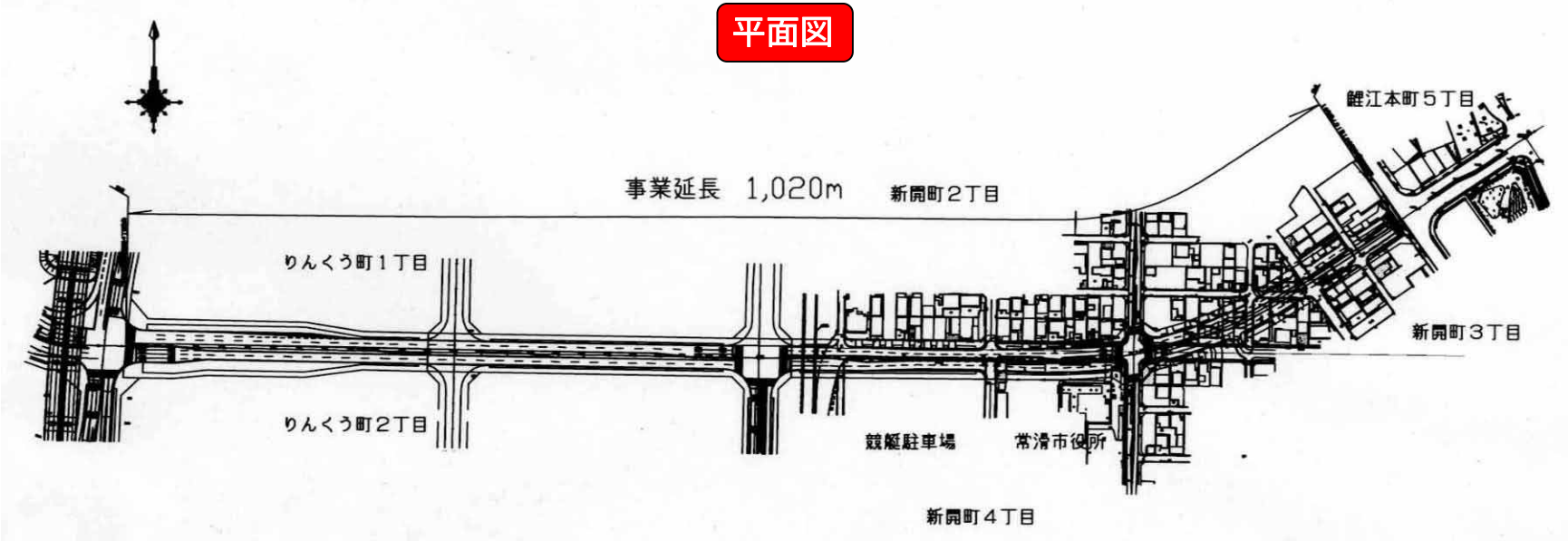
- 本事業は、常滑市の中心市街地と中部国際空港への玄関口である知多横断道路（セントレアライン）りんくうＩＣとを結ぶ、平面構造の街路整備を行ったものである。全延長1.02kmのうち、0.52kmは空港開港にあわせ新たに造成された空港対岸部地域開発用地内に築造され、残りの0.50kmは既成市街地内において整備を行った。常滑市の中心市街地を貫くシンボル的な路線として、本市の伝統産業である「とこなめ焼き」をイメージさせる色調での歩道の美装化やバリヤフリー化を行い、街並みと一体となった街路整備を目指した。

事業位置図

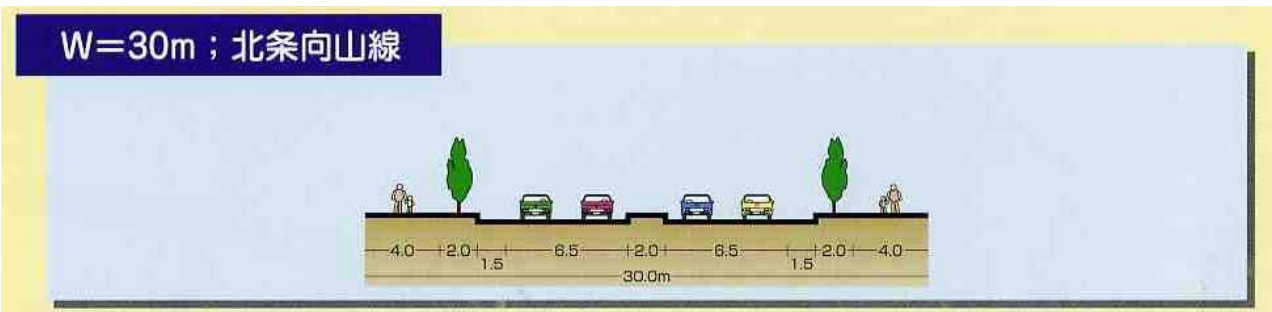
世界に開かれた生活文化都市
常滑市を支えるみち・まちづくり
常滑市は、中部国際空港やアクセスの整備により交通の利便性が飛躍的に向上します。また、これに合わせた空港島対岸部における魅力的な都市機能の立地や、常滑駅周辺での中心市街地の再整備構想など、21世紀に向けた新しい常滑が今生まれようとしています。
このような中、愛知県や常滑市はこれら新たな拠点づくりを推進するとともに、高齢者や子供たちが安心して移動できる交通基盤の整備を計画しています。
空港島対岸部の土地利用計画
中部国際空港のイメージ
りんくうインター
北条向山線　事業区間Ｌ＝１．０２ｋｍ
（空港島対岸部）
中心市街地の土地利用構想
常滑駅周辺のイメージ
N

全体図（平面図・横断図）

平面図



横断図



常滑都市計画道路３・４・４号北条向山線
整備効果アピール資料

☆事業概要☆
事　業　名：常滑都市計画道路３・４・４号北条向山線街路事業
路　線　名：３・４・４号　北条向山線
事業箇所：常滑市りんくう町１丁目～常滑市新開町３丁目
事業延長：１．０２ｋｍ
幅　　員：３０～４６ｍ
総事業費：約６，０１４百万円
事業期間：Ｈ１２～Ｈ１６年度

☆交通量調査結果☆
供用前調査日：平成１６年１１月１１日
供用後調査日：平成１７年１０月１８日
【計測結果】

『リンク１』	交通量	－台	→	５，７２２台	旅行速度	－分	→	９分
『リンク２』	交通量	４，０７６台	→	２，９９６台	旅行速度	１３分	→	１０分
『リンク３』	交通量	３，５８７台	→	２，２０３台	旅行速度	１４分	→	１０分

≪事業効果≫

○常滑市沖に開港した中部国際空港へのアクセス道路として、知多横断道路（セントレアライン）等とともに重要な役割を担う路線である。

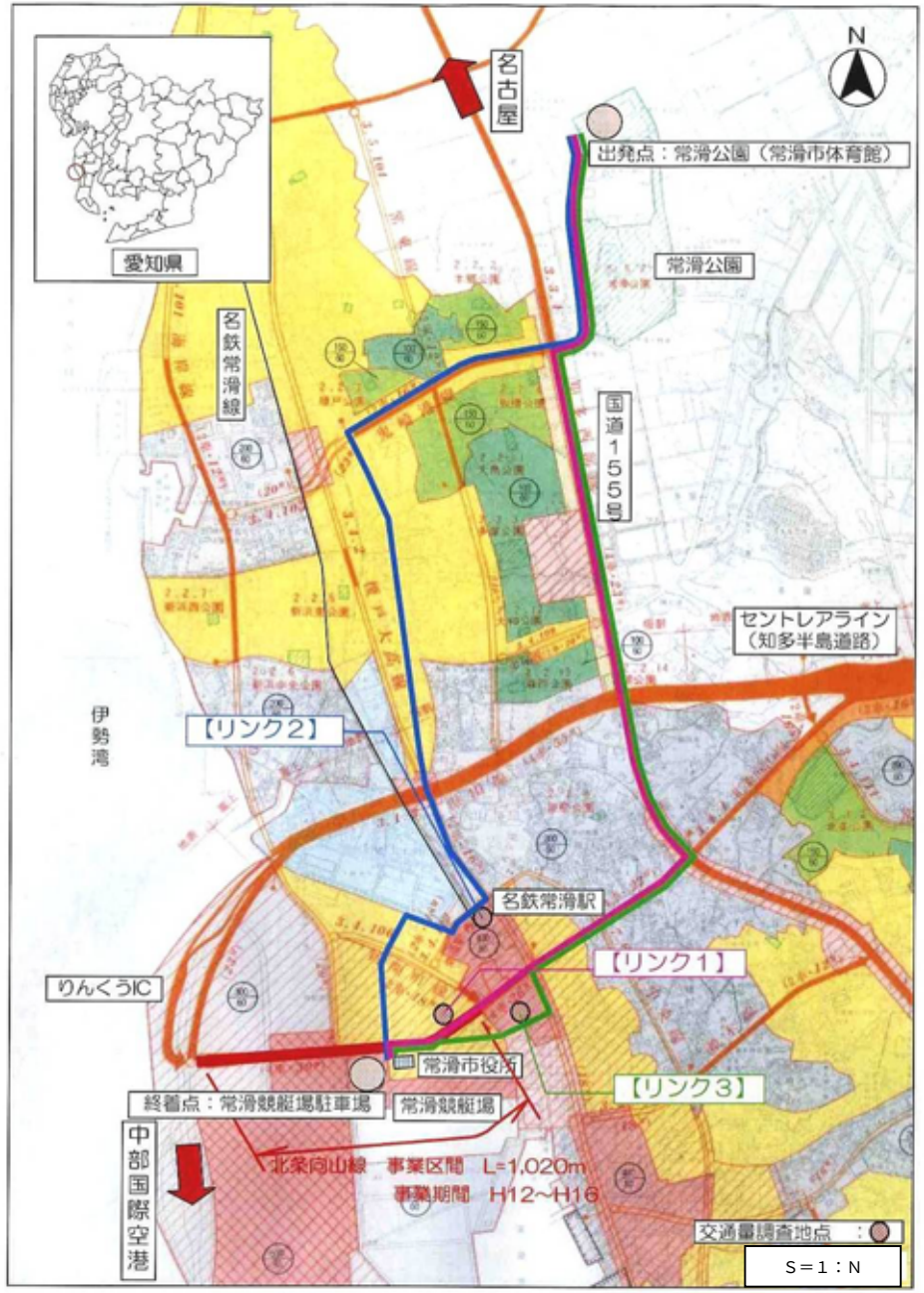
○東西軸の弱い常滑市において、主要駅と官公庁周辺を結ぶ本路線は重要な東西軸路線として、また市のシンボルロード的な路線として、その整備効果は大きい。

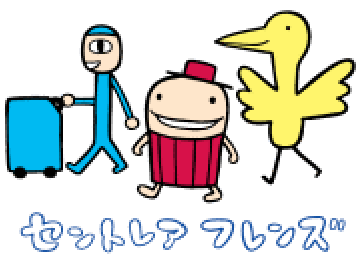
○本路線の開通により、周辺交通の本路線への流入がみられ、周辺道路の交通量の減少に寄与している。

○今後の空港対岸部地域開発用地への企業誘致の促進につながるとともに、企業進出に比例した交通量の増加が見込まれる。

事業着手前

事業完了後



事業着手前

事業完了後